

産業・生業の再生に向けての 復興庁の主な取組

平成29年2月9日



1. 産業連携による産業復興の取組

1－① 地域復興マッチング『結の場』

1－② 被災地域企業新事業ハンズオン支援事業

1－③ 専門家派遣集中支援事業

1－④ 産業復興事例30選 東北発私たちの挑戦

2. 復興・創生インターン

3. ホヤの消費拡大のための取組

4. ポケモンGOイベントへの後援

1-① 地域復興マッチング『結の場』①

【経営課題（例）】

- ・ 新商品の開発手法がわからない
- ・ 施設は復旧したが、販路がない
- ・ 企画立案担当者などの担い手不足

課題
相談

ワークショップ
において検討

支援
提案

マッチング

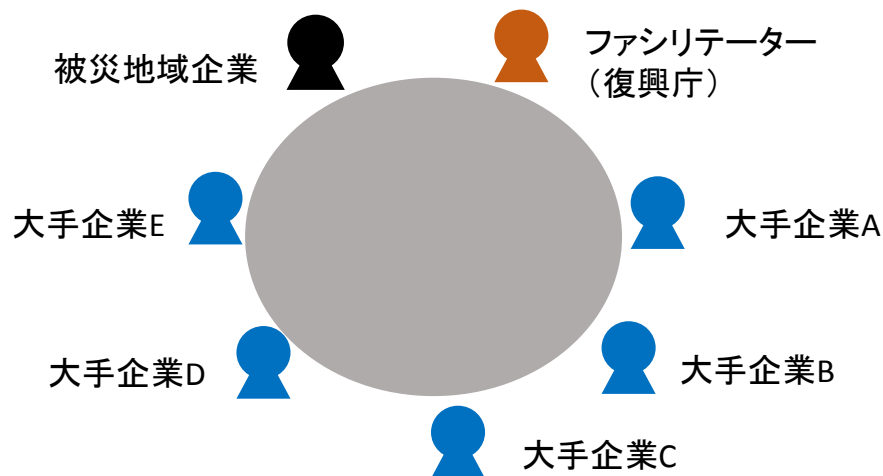
大手企業等

【支援提案（例）】

- ・ 自社ノウハウやアイデアの提供
- ・ 社内販売、社員食堂等での販売機会提供
- ・ 人材育成支援・研修プログラム提供

連携事業の創出

ワークショップのイメージ



- ・ 被災地域企業は課題等を紹介
- ・ 大手企業は課題を聴取したうえで、課題解決にむけた提案を検討。

1-①（参考）地域復興マッチング『結の場』の実績

【ワークショップ開催地】

回	開催日	開催場所	地域企業	支援企業	マッチング件数
第1回	H24.11.28	宮城県石巻市	13社	35社	24件
第2回	H25.2.13	宮城県気仙沼市	10社	33社	26件
第3回	H25.11.7	宮城県南三陸町	6社	21社	5件
第4回	H25.12.4	宮城県亘理町	6社	19社	6件
第5回	H26.1.29	岩手県宮古市	6社	26社	13件
第6回	H26.2.6	福島県福島市	8社	26社	25件
第7回	H26.12.9	福島県南相馬市	8社	28社	16件
第8回	H27.1.22	宮城県多賀城市	7社	29社	7件
第9回	H27.2.5	岩手県大船渡市	9社	26社	14件
第10回	H27.2.13	宮城県気仙沼市	9社	26社	12件
第11回	H27.10.1	福島県会津若松市	9社	22社	21件
第12回	H27.10.7	岩手県久慈市	10社	27社	19件
第13回	H27.11.26	宮城県女川町	7社	36社	17件
第14回	H28.2.5	福島県広野町・楡葉町 富岡町・川内村	9社	27社	15件
第15回	H28.9.7	岩手県釜石市	7社	22社	—
第16回	H28.9.8	岩手県山田町	8社	17社	—
第17回	H28.11.8	福島県相馬市	7社	24社	—
第18回	H28.11.14	宮城県東松島市	8社	29社	—

1-① 地域復興マッチング『結の場』②

【主な成果事例】

株主優待商品への採用による販路拡大支援プロジェクト

支援提案企業
ラックランド



被災地域企業(女川町)
岡清/マルキチ阿部商店/
夢食研/和田商店

【被災地域企業が抱えていた課題】
自社営業のみで新たな販路拡大が難しい中、まずは商品を知ってもらう機会を求めていた。

【マッチングプロジェクト内容】
飲食業への企画・提案を行っているラックランドの株主優待商品に「女川町コラボセット」を採用。

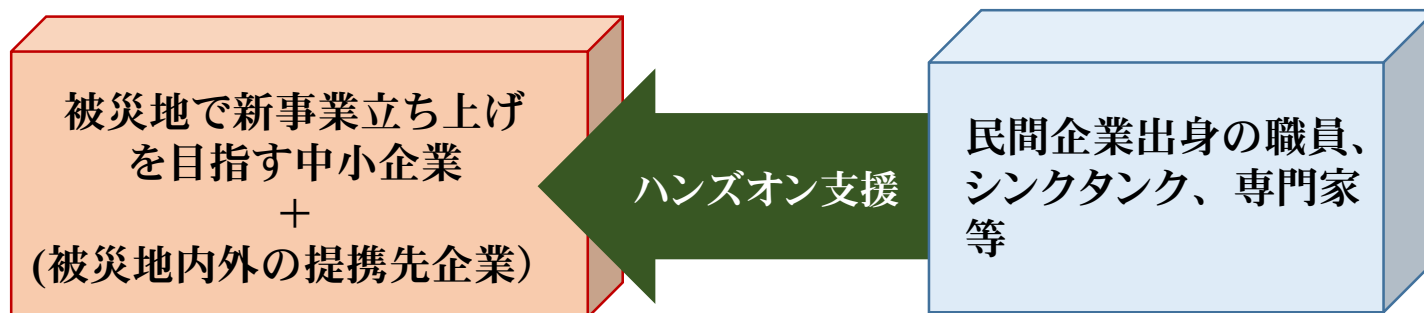


女川コラボセットの一例

1ー② 被災地域企業新事業ハンズオン支援事業

復興庁職員自らが被災地域で新たな事業にチャレンジする企業に対して、具体的な実務支援（ハンズオン支援）を実施。

【支援イメージ】



ハンズオン支援の例

- ①事業計画の策定
- ②市場調査・競合品調査・製品評価等の実施
- ③新たな販路や事業パートナーとのマッチング
- ④試作品製作費・展示会出展費・専門家謝金等、事業立ち上げに必要な経費の一部負担

【支援件数】 ※26年度までは「企業連携プロジェクト事業」

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
7件	7件	10件	15件	12件

1-② (参考) 平成27年度の支援事業 (宮城県内)

【平成27年度の支援事業 (宮城県内)】

事業名	市町村名	主たる事業主体	事業概要
東北大学大学院歯学研究科発シーズを活用した歯周病治療機器の製造・販売事業の設立支援	仙台市	(仮称) 株式会社 Feat.	東北大学大学院が開発した治療法を活用した歯周病治療機器を製造・販売する新会社の設立を検討している事業者に対し、消費者ニーズの有無や市場規模の調査等を支援し、資金調達に向けた事業計画の精査や新会社設立に向けた課題整理等を実施した。
半油調商品の販路開拓及び新商品開発事業	塩釜市	マルブン食品株式会社	水産加工品である「揚げかまぼこ」を製造する事業者に対し、“揚げたて”の美味しさが味わえる半油調商品の販路拡大を目指し、国内外への販路拡大に向けた販促ツールの製作やバイヤーに対する営業支援を行うとともに、海外展開に必要な基礎調査を実施した。
地域雇用・高齢者の生きがいの創出を目的とした一時預かり施設整備事業	石巻市	アールズ株式会社	地域雇用・高齢者の生きがい創出を目的とした一時預かり施設の整備を計画していた事業者に対し、市場の将来性や参入の容易性整理や事業計画の作成、競合差別化を目的とした付加価値サービスの収集・整理等を行い、来年度以降の事業展開を準備した。
石巻ササニシキのブランディング及びオーガニックカフェ展開事業	石巻市	株式会社田伝むし	生産量が激減しているササニシキのブランディング（認知度回復）・生産拡大を目指している事業者に対し、新商品開発を提案した上で、商品コンセプトの構築、レシピの決定、販促プロモーション等を行い、石巻の水産品とコラボした新商品開発を支援した。
雪用塗料生産工場の新設に伴う生産・販売体制構築事業	仙台市	KFアテイン株式会社	ワックス製造・販売を行っていた事業者に対し、売上拡大に向けた効率的な営業活動を行うためのマーケティング戦略の明確化や戦略を立案するための合理的な実証試験、実証試験結果を踏まえた営業ツールの作成支援を実施した。
フレキシブルシルク電極及び関連商品の製造・販売事業	仙台市	エーアイシルク株式会社	「フレキシブルシルク電極」の製造・販売等を行う事業者に対し、パートナー企業を探ることを目的として認知度の向上を図るとともに、事業資金の調達支援を行い、ビジネスモデルの策定を支援した。

1-② (参考) 平成28年度の支援事業 (宮城県内)

【平成28年度の支援事業 (宮城県内)】

事業名	市町村名	主たる事業主体	事業概要
地域の水産品を活用した、お魚（海鮮）ハンバーグの開発・新規市場の開拓	石巻市	株式会社ヤマトミ	無添加のお魚ハンバーグに対する消費者ニーズの調査にもとづき、高品質な新商品を開発。新たなマーケットへの販路開拓を支援する。
牡鹿半島ブランド化推進事業	石巻市	牡鹿半島旅館民宿組合	観光資源や食材など、地域の魅力の発掘と、プロモーション手法の開発支援により、牡鹿半島全体のブランド化を推進する。
電子ビーム方式金属3Dプリンタを活用した新ビジネスの立上げ	多賀城市	株式会社コイワイ	3Dプリンターの適用事例や市場規模などの分析、中小企業等からの受託製造を対象としたマッチング等の支援を実施する。
ハラール認証及びアレルギーフリー対応レトルト食品の研究開発	岩沼市	(株)にしき食品	増加が見込まれる訪日イスラム教徒向けの新規販路開拓に向けて、ハラール市場の分析や商品開発の支援、事業展開のシナリオの策定を実施する。
唐桑半島観光振興	気仙沼市	唐桑町観光協会	観光資源や食材など、地域の魅力の発掘と、プロモーション手法の開発支援により、観光向け民宿サービスの向上に取り組む。

1－③ 専門家派遣集中支援事業

被災地で新たな事業を立ち上げる企業（被災地域内外）やまちづくり会社設立を検討中の協議会等に対し、**専門家・専門機関**が、市場調査等の集中支援を実施

被災地域企業等

- 新商品・サービスの開発
- 既存商品の高付加価値化
- 生産性向上・効率化
- 商業施設開発

集中支援

専門家

+

専門機関

集中支援の具体的な内容

- ・ 専門家による調査・分析と経営者との面談に基づく改善提案（プロデュース支援）
- ・ 調査、評価、試験販売、販促活動等の外部専門機関の能力活用（アウトソーシング）
- ・ 専門家による継続的な助言、指導、実務支援（ハンズオン支援）

●被災三県の新事業21件に対して支援実施。うち宮城県内では8件に対して実施（平成27年度）。

1－④ 産業復興事例30選 東北発私たちの挑戦

平成24年度より被災地企業の先導的・創造的な事例を収集した「被災地における先行事例集」を作成。

⇒平成28年度は、震災後に業績回復を達成した被災事業者の事例を掲載。



株式会社オノデラコーポレーション コーヒー事業部の店舗写真
(宮城県気仙沼市、過去の事例集に掲載した企業のその後の成長の事例)

2 復興・創生インターン①

【沿岸部の課題】

- 震災による従来の担い手の離職
- 都市部への人口流出 など

⇒ 水産加工業等に対する長期（1か月程度）の実践型インターンシップを、被災地のNPO等と協力して実施し、自立的な人材確保・育成を促す。

目的

学生

経営者と協働して経営課題の解決への取り組み

受入企業

人材獲得力・育成力の向上、働きやすい職場の実現の実践

【平成28年夏の主な実施例】

＜石巻市＞

- ・株式会社ヤマトミ
- ⇒ サバサンドの開発



＜女川町＞

- ・協同組合エルファロ
- ⇒ 自転車ツアーの企画



＜気仙沼市＞

- ・株式会社菅原工業
- ⇒ 建設業のイメージ改善



【平成29年春】釜石・大船渡・気仙沼・石巻・女川で実施予定

2 復興・創生インターン②

成果

事業の中での成果

- ・新規事業が立ち上がった！
 - ・顧客拡大に貢献できた！
 - ・新商品開発など自社製品を持つきっかけになった！
- など

体質改善

- ・経営者の姿勢が変化した！
 - ・社内コミュニケーションが改善した！
 - ・若手との接し方に慣れた！
 - ・業務プロセスが改善された！
- など

人材獲得力の向上

今後の取組み

復興・創生インターンは規模を拡大

社会人向けトライアル就業を新たに実施

成果の共有による取組の拡大

人手不足の解消
地域の持続的成長

3 ホヤの消費拡大のための取組

【震災前】生産量の7割を韓国向けに生産。

【震災後】原発事故を理由に韓国がホヤを含めた海産物の輸入を禁止。

⇒ 大量廃棄を余儀なくされている状況。



典型的な風評被害であり、水産本来の生業の姿を取り戻す必要。

⇒ 国内消費拡大のため、まずは食材としてのホヤの認知向上が課題。

陸上自衛隊多賀城駐屯地の
昼食でホヤ天カレーを提供
(平成28年12月14日)



当日のアンケート結果

- 美味しい : 70%
- ふつう : 20%
- 美味しくない : 10%

今後も様々な認知向上策
を実施していく予定

4 ポケモンGOイベントへの後援

平成28年11月12日（土）、宮城県が、ポケモンGOのアイテムを獲得できる場所である「ポケストップ」の候補地を選定するイベントを開催（復興庁後援）。



拠点会場となった石巻市には、当日1万人以上が訪問（宮城県発表）

効果

- 風化・風評被害の防止
- 被災地域の商業活動の活性化